



Title	〔資料紹介〕 翻刻 新出『沢庵宗彭詩書卷』
Author(s)	中本, 大
Citation	詞林. 1995, 18, p. 75-79
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/67376">https://doi.org/10.18910/67376</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

〔資料紹介〕

# 翻刻 新出『沢庵宗彭詩書卷』

中本 大

書 誌

卷子装。一卷。縦二五六耗、横二三五種。題簽「洛北龍阜少年試頌之摠和」、巻頭に「淳君美文丈末試頌之韻」と記される。即ち、京都紫野大徳寺の禅僧を中心とした、淳君なる少年僧の新春試筆への次韻詩の集成である。巻頭第一首が試頌、以下三十二僧の和韻が続き、最後に沢庵の作が認められている。巻末の夢伴子、紹果天祐の識語により、沢庵二十歳余の自筆とされる。現在、大阪青山短期大学所蔵。斯詩巻に関しては、『思文閣古書資料目録第百三十四号（善本特集第五輯）』に簡単な紹介がある。

五山叢林で製された歴代の試筆やその唱和詩は『翰林五鳳集』に収載されるものの、同一契機の諸作を悉く集成したものは寡く、本詩巻は、往時の大徳寺学僧の文芸活動の一端を示唆するにとどまらず、禅林伝統の試筆詩の近世初期における展

開、及び追和詩や艶詩における表現の新奇と類型を考察する上でも、興味深い資料といえる。また、本邦禅林における試筆詩については朝倉尚氏の論攷がある（『禅林における試筆詩・試筆唱和詩について』、『国文学攷』第十六号 昭和四九年）。参照されたい。

なお、本詩巻の解題の詳細は次稿に譲ることとする。

## 翻 刻 の 方 針

- 一、漢字体は原則として新字体による。
- 一、解説の便をはかるため、七絶各句の頭を揃えることとし、元來の行移りは、/で示すこととする。
- 一、右二項以外の翻刻者の注記はすべて（ ）で包んだ。

web公開に際し、翻刻は省略しました

web公開に際し、翻刻は省略しました

web公開に際し、翻刻は省略しました

web公開に際し、  
翻刻は省略しました

(なかもと・だい 本学文学部助手)